

早期発見

早期治療

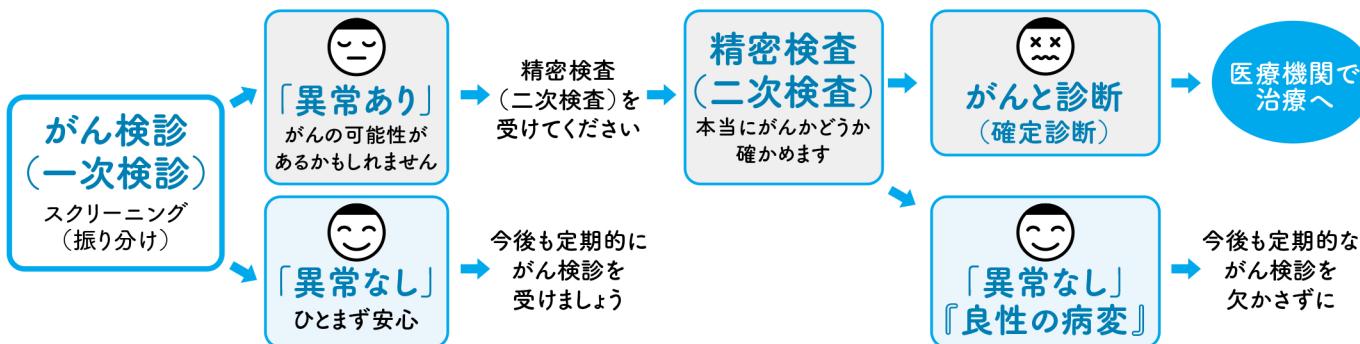
定期的にがん検診を受けよう!

日本では、「大腸がん」「肺がん」「胃がん」「乳がん」「子宮頸がん」については、国のがん対策として「がん検診」を行っています。これらのがん検診は、自治体などでも実施していることが多く、対象年齢に該当すれば無料もしくは少額の自己負担で受けることができます。



がん検診の流れ

がん検診は一次検診、精密検査（二次検査）、がんの確定診断、治療という流れで進んでいきます（下図参照）。一次検診では「スクリーニング」といって、健康な人と、多少でもがんの可能性が疑われる人を振り分けます。「異常あり」（がんの可能性があるかもしれない）の判定が出たら、精密検査を受けることになります。「異常あり」の人のうち、がんが見つかるのはごくわずかです。怖がらないで必ず精密検査を受けましょう。もし、精密検査でがんと診断された場合は、必要に応じて治療へ進むことになります。



早期発見が大切

欧米諸国では、がんによる死亡が頭打ち、または減少傾向にありますが、日本では依然として増加傾向にあります。医療技術的には大きな差がない欧米諸国との違いの理由として考えられるのは、がん検診の受診率の違いです。

たとえば、乳がん検診と子宮頸がん検診の受診率では、アメリカの受診率70～80%に対して、日本では30～40%です。肺がん検診の受診率も日本では40～50%程度です。やはり欧米諸国に比べて受診率が低いことで早期発見・早期治療を実現できていないということが理由の一つのようです。

国立がん研究センターが2021年4月に発表した2008年にがんと診断された患者の10年生存率は下表のとおりです（一部抜粋）。この表からもがん検診を受けて、早期発見・早期治療をすることが大切なのわかります。

| がんの種類 | ステージ1 (%) | ステージ2 (%) | ステージ3 (%) | ステージ4 (%) | 全体 (%) |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|
| 乳がん | 99.1 | 90.4 | 68.3 | 16.0 | 87.5 |
| 子宮頸がん | 92.9 | 71.9 | 54.6 | 16.9 | 70.7 |
| 大腸がん | 93.6 | 83.9 | 69.4 | 11.6 | 67.2 |
| 胃がん | 90.9 | 59.3 | 34.6 | 6.9 | 66.0 |
| 肺がん | 72.4 | 35.2 | 13.5 | 2.0 | 34.5 |

※進行度を示すステージの数字が小さいほど、がんが狭い範囲にとどまっていて、治療効果が得やすいとされています。